



「子どもが生きる力を付けるために親ができること」工藤勇一著より

子どもは思うようには育たない

～ 苛立つよりも、幸せな親子関係を大切にしよう ～

私が考える子育てのポイントは、親子の幸せ関係が何よりも大切だということです。なぜなら、子どもにとって家庭が安心安全な環境であることで、自信がつき、何かに挑戦してみようという気持ちが生まれるからです。

子どもが新しいこと、今までの自分にやってこなかったことに挑戦していこうとする力は、「失敗しても大丈夫」という安心な環境があってこそ大きく成長するものです。ですから子どもが自律するためにも、親子の幸せな関係性はとても大切なことと言えるでしょう。

保護者と子どもは別の人間で、歩む人生もまったく違う

とは言え、子育てをしているなかでは、子どもに対してつい感情的に怒ってしまうこと、口うるさく言うてしまうことはあります。保護者の方がお子さんに対して感情的に怒ってしまうのはどんなことでしょうか？「ぐずぐずしないでもっと早く決めなさい！」「なんでそんなこともできないの？」「もっとこうしたらうまくいくのに」……。

冷静に考えてみるとそれは、あなた自身が「自分のためなところ」「嫌いなところ」と認識しているところではありませんか。つまりあなた自身が、こだわっている部分です。多くの保護者の方は、自分がしてきた失敗を子どもにさせたくないと考え、「これをしたほうがいい」「あれはしないほうがいい」と言ってしまうがちです。

するとこの価値観が、子どものなかで大きくなり、クローズアップされることになります。自然と子どもも、その部分にこだわるようになるのです。自分の失敗やためなところを子どもに投影しても、あまり意味がありません。親子と言えど、保護者とお子さんは別の人間で、歩む人生もまったく違うからです。

保護者が社会を否定してはいけない

～ 保護者が物事を否定する姿を見ると、人のせいにする子になる ～

保護者の皆さんは、なんか問題が起きたとき、子どもの前で「社会が悪い」「学校が悪い」というような言葉を使っていませんか？「〇〇が悪い」という気持ちになることもあるし、他人を批判したくなることもありますが、子どもの前では可能な限り口に出さないようにしましょう。

それをやってしまうと、子どもたちが学校でうまくいかないことを担任のせいにするのと同じように、物事を人のせいにする習慣が生まれてしまいます。保護者が物事を人のせいにするのを見て育った子どもは、うまくいかないことをいずれ保護者のせいにするようになります。子ども前で何かを否定する前に、少しその言葉について考えてみてください。